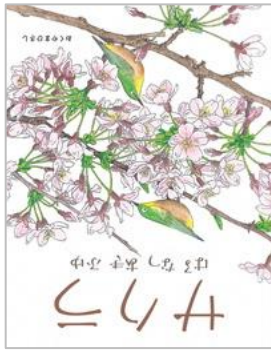


ふゆのあいた、えただけだつたサクラの木。こほみがすこしずつふくらんで、はるには花がまんかいになりました。そこへ、メゾロやミツバチがやってきて、みつをすつたりかふんをたこんだりしています。サクラをじつくりかんさつすると、たくさんのはつけんがあります。

E 『サクラ』 はる なつ あき ふゆ
おくらやまひさし／作 ほるぶ出版



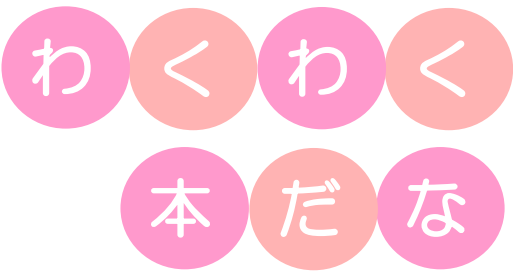
スズメのはなは、にんげんのお母さんがおけしよをしっているのを見て、まねをしてかたくなります。このそりまどからへやにはいて、お母さんのほおべにをぬつてみました。そのとき、おんのかかみていることにきがついて、はなはあわててにげだそうとします。

K913 『とりあえずとりのはなし』
おくらゆめ／作 あかね書房

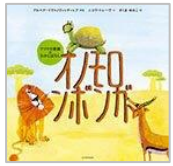


紙を8つにおいて、半分にひろげてね。てん線のところに、ハサミで、きりこみをいれて、くみたてれば、本のかたちになるよ！

編集・発行 富山市立図書館
富山市西町5番1号
電話 076-461-3200
としょかんのホームページもみてね！



E 『オノモロンボンガ』
アルペナ・イヴァノヴィッチ=レア／再話
ニコラ・トレーヴ／絵
さくまゆみこ／訳
光村教育図書



カメが、おいしい実のなるまほうの木をさがしにでかけました。その木は<オノモロンボンガ>といって、なまえをよばないと実をくれないのです。そこへライオンがきて、あしのおそいかめのかわりに木をさがそうとしますが、なまえをわすれてしまいます。

E 『こんとごん』
てんてんありなしのまき
織田道代／ぶん
早川純子／え
福音館書店



こんがドアをあけると、おひさまが「きらきら」、かぜは「さわさわ」しています。ごんがとなりのドアをあけると、おひさまが「ぎらぎら」、かぜは「ざわざわ」していました。ふたりがドアの中をすすんでいくと、にているけれどすこしちがうことがおこります。

平賀源内は江戸時代の発明家です。初めて見るものでも仕組みを見ぬき、なんでも自分で作る事ができました。しかし、オラソクから来た<しびれる箱>だけには、長年仕組みがわからないうままでした。

<しびれる箱>の解明にとりかかった源内は、箱から出る火花がいなすまにしていることに気が付きます。

鳴海風／著 高山ケンタ／画 岩崎書店

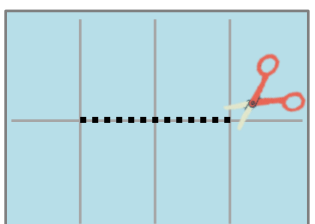
『エレクトロニクスの謎を解け』
電気を発見した技術者平賀源内』
K289



青森県八戸市には、<えんぶり>という春をよぶお祭りがあります。太一と優希が、えんぶりで<えびす舞>をおどるようになりました。しかし、太一はやる気がない。うえに、優希はリズムおんちで、二人は息が合いません。そんな中、太一がまわりにかくしているあることが原因で、優希と大ゲンカしてしまいます。

高森美由紀／作 フリーバル館

『ふたりのえびす』 K913



紙を8つにおいて、半分にひろげてね。てん線のところに、ハサミで、きりこみをいれて、くみだてれば、本のかたちになるよ！

編集・発行 富山市立図書館
富山市西町5番1号
電話 076-461-3200
としょかんのホームページもみてね！

わ く わ く
本 だ な



2022年
4月号

4 5 6 年



K913 『チイの花たば』
森絵都／作 たかおゆうこ／絵
岩崎書店

チイのおばあさんは、お花屋さんです。お客さんにぴったりの花たばをつくるおばあさんを見て、チイも花やになりたいと思うようになりました。そんなチイに、おばあさんは「花やにふさわしい人間か、花にためされる日が来る」といいます。

ある夜チイは、夢の中で花畑にいました。そこで白ヤギのおじいさんと出会い、おくりもの花をえらぶ手伝いをします。